

若者の目に大山町はどう映る？

〜武蔵野大学の学生が長期研修〜

6月12日〜7月10日の約1か月間、武蔵野大学（東京）の学生12名が大山町に滞在し、アマゾンラテルナ鳥取大山オフィスを中心に体験学習を行いました。

コンセプトは、「映像のチカラで地域を変える」。テレビ映像の作り方を学びながら、大山町の人々の仕事や暮らしを経験し、人に触れ、映像の作り手として町が抱える課題や魅力を探りました。

滞在期間中は、町内各地へ出向き、地域自主組織のイベントに参加したり、農業・観光体験、町あるきなどを行ったりして、多くの住民の方々と交流を持ち、大山チャンネルの番組を制作しました（7月11日放送「ソトから見た大山町」）。

大山町の方々も積極的に関わってくださり、学生からは、「大山町の方々は心がとてもあたたかい」、「毎日差し入れが届いた」、「また来たい」などたくさん感謝の気持ちを残して帰京されました。



▲「これ、おもしろいかも!？」

寄付をありがとうございました

一般財団法人鳥取県サッカー協会から100万円の寄付をいただきました。この寄付は「山香荘をはじめとする体育施設の環境整備に役立ててほしい」と4年前から続けられているものです。

贈呈式は7月28日に行われ、同協会の池田洋二会長から竹口大紀町長に手渡されました。



▲竹口町長に手渡す池田会長（右）

清流で過ごす夏の一日!

甲川溪流まつり

甲川うぐいす橋下手を会場に、甲川溪流まつり（中山まちづくり実行委員会）が7月30日に行われました。日本百名谷の1つに数えられている溪流「甲川」の素晴らしい自然を知り、親しみをもってもらおうと毎年開かれ、子どもから大人まで楽しめるイベントとして定着しています。

今年は町内外から約300人が参加。上流探検、ヤマメのつかみ捕り

や流しそうめんに、子どもたちはもちろん、大人も童心に返って満喫しました。捕まえたヤマメはさつそく炭火で焼かれ、香ばしいおいが広がりました。

参加者の皆さんは、清らかな川面を流れる冷たい風を感じながら、ヤマメの塩焼きにかぶりつき、「楽しい」「おいしい」と大満足の様子でした。



▶「ヤマメ、つかめたよ!」